



情報ギャラリー第45号

発行日 2009年1月27日

編集 グループ“わ”広報部

発行者 加藤 勇治

発行元 NPO法人社会還元センター
グループ“わ”

TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103

Eメール group-wa@wa-net.jp

2009年の年頭に想う

理事長 加藤 勇治

新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃はグループ わ の活動と運営にご理解とご協力をいただき、役員を代表して深く感謝申し上げます。昨年5月郷前理事長の後を受け、理事長の重責を担ってから約8ヶ月間“わ”の事業運営に全力投球して参りました。新年に当たり考えてみますと、グループ わ に期待されていることには誠に大きなものがあります。

その1つには高齢者の「健康・いきがい造り」と「手厚い介護(助)ケア」の問題です。

人々が長生きするようになり、急増する高齢者のこうした問題は今や社会問題といえます。要介助、要介護状態に至る前の高齢者の健康づくり、いきがい造りは今や深刻です。

現在高齢者に普及しているニュースポーツ(グランドゴルフ、ローンボウルなど)も有効ですが、要介助、要介護高齢者への各種ボランティア活動、例えば買い物や通院の介助、植木・花壇の手入、清掃・洗濯といった日常生活のケアボランティアも各種介護ボランティアや福祉施設の友愛訪問とともに健康増進、いきがい造りの手段として見直されています。高齢者が自らの健康増進・いきがい造りのために要介助、要介護高齢者の手助けをすることが社会的に歓迎され、要請される時代となっています。

2つには子どもの健全育成の問題です。昔と異なり核家族化が進み、祖父母と暮らした経験のない子どもが殆どの世の中です。学校でも、家庭でも子どもがのびのび育ちにくい環境にあります。自己中心的で我慢することも、努力することも身につかないまま育ち、自分が気に入らなければ相手を攻撃する若者が増えました。学校では教えられないことや昔ながらの日本の心を地域ぐるみで子どもに伝え学ばせなければならない状況にあります。経験豊かな熟年世代の人たちが思いやりの心をもって子どもに係わり、学校を支援する地域ぐるみの輪に加わることが最近特に求められています。

3つには環境教育の問題です。ご高承のとおり「地球温暖化」や「省エネ」といった環境問題は今や世界的テーマとなり、諸外国では数年前から一般家庭でもムダをなくし、エネルギー消費を最小限にする努力が行われています。昨年神戸で開催された環境サミット(環境大臣会合)で環境問題が空前のブームとなりましたが、環境保全や省エネ対応の取り組みが今や一般家庭レベルで叫ばれています。「もったいない」の言葉が身につけている私たちの世代が子ども達にムダをなくすこと、環境保全の重要性を訴え続けねばなりません。

経験豊かなシルバー人材を擁する わ の活動は今後ますます重要性を増すに違いありません。一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、ともに汗を流し、ボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」「基盤造り」に新年度は本格的に取り組みたいと考えています。

今年度の主な事業の取り組み経過と今後の予定について下記に述べます。

こうべ環境未来館

一昨年公募で受注した企画運営業務の委託業務は今年度が2年目、運営は全て順調に推移しています。今年度は5月の環境サミット神戸開催を機に市主催各種環境関連イベントにも積極的に協力する一方、市内各種団体向け「家庭版エコマニュアル」出張説明会実施に際し、各協力他環境団体への講師派遣手配など市の事務局としても積極的に機能発揮しています。また来年度企画業務担当責任者勇退に伴い、後継企画業務体制への円滑移行にも努めています。事業の円滑運営に向け引き続き会員の皆様方のご協力をお願いします。

電話相談委託事業

神戸市こども家庭センターでの「児童虐待夜間休日相談ダイヤル」(平成17年7月受注)、神戸市教育委員会の「いじめホットライン」(平成19年3月受注)の両電話相談業務はともに大きなトラブルもなく順調に業務遂行中です。今後も委託先の信頼を裏切ることがないよう業務体制の拡充を図って参ります。(次ページに続く)